

# 学力向上に係る指導法の工夫

【蓮田市教育委員会】

「自分の思いや考えを正しく伝える力」を育成するために、各教科において、指導法の工夫に取り組んでいる。国語科では、確かな言語能力を身に付け、伝える力・書く力を育成する指導法、数学科では、学習意欲を喚起し、一人一人の理解が深まる授業の実践を挙げる。

## 1 国語科の具体的な実践例

### 学力向上の課題

**伝える力・書く力の育成（言語活動の充実）**  
**漢字・語句を正しく読む、書く学習の工夫**  
**学習習熟度差の是正**

(1) 第3学年 伝える力の育成・書く力の育成（説得力のある文章を書く）

①修学旅行の事前学習を兼ねて、「京都・奈良の俳句」の鑑賞文を書く。

《手順》

- 京都奈良を詠んだ俳句のプリントから一句選ぶ。
- 選んだ俳句について、固有名詞・季語などを調べる。
- 「～というのである」「～教えてくれる」「～味わいたい」などの「鑑賞文特有の言い回し」を使って鑑賞文を書く。

《指導のポイント》

- 俳句のよさをほめる。
- 表現は短文で、わかりやすく簡潔に書かせる。

②自作の俳句を添えて修学旅行の三文日記を書く。

《手順》

- 修学旅行中に俳句を作る。
- その時の様子や気持ちが伝わるように、見たことやしたこと、思ったことを「三文日記」に書く。
- パソコン入力する。

《指導のポイント》

- 自分なりの発見を書かせる。
- パソコン入力で推敲させるとともに漢字を使わせ完成度を高める
- 文集にすることで相手を意識させて書かせる。



③漢字や語句を正しく書いたり読んだりする学習の工夫

- 下書きの段階では、漢字にこだわらず、清書の段階ではどんどん漢字を使わせる。習っていない漢字もこだわらず、お互いに漢字に触れる機会を増やす。
- 難しい漢字に読みがなをつけさせる。(相手を意識させる)

(2) 第2学年 漢字や語句を正しく読む

①生徒の興味関心を高める古典学習(少人数指導)

《手順》

- 「枕草子」「徒然草」の教科書掲載部分を導入として、作品世界への展開を試みる。
- 少人数指導の利点を生かし、古文のリズムに慣れるよう音読の機会を増やす。
- 生徒の興味関心を生かし、希望選択とする。

《指導のポイント》

- 古文のリズムに慣れるよう、教師の後について読んだり各自の練習をする時間を十分に確保する。
- 原文と現代語訳を丁寧に対応させることにより内容を理解させる。

(3) 第1学年 書く学習の工夫

①ノートづくりの工夫

《手順》

- 4月より学習ノート作りの指導を行う。  
(上段・・・板書事項を書き写す。下段・・・自主学習)
- 下段の内容例を示し、自主的な学習の習慣化を図る。
- 定期的な評価と他者紹介により学習の幅を広げる。



《指導のポイント》

- 初期の指導として下段の内容例をたくさん示したり、意図的に下段の使用場面をつくるなど活用を広げる。

《手順》

- 古典学習における原文・現代語訳の対比ノートを作成する。
- 原文と現代語訳を対比させることで理解に役立てる。

《指導のポイント》

- 教科書からていねいに視写させる。
- 原文と現代語訳を意識させる。(内容の理解につなげる)



2 数学科の具体的な実践例

学力向上の課題

「話し合い」「発表」「質問」等の場面を工夫し、生徒が意欲的に取り組める授業づくり・学習習熟度差の是正

## (1) 第1学年 内容「1次方程式の利用」

1次方程式の解き方の学習までで習熟の程度の差が大きくなっており、基礎基本の定着と個に応じた指導を目指して、「正負の数の計算」から「1次方程式の利用」までの課題選択学習をグループ学習で行った。

### 《学習の流れ》

#### ○ステップ1・・・課題の把握

課題 a ; 正負の数の計算      課題 b : 文字式の計算      課題 c ; 方程式の解き方  
課題 d ; 1次方程式の利用 (文章問題)

#### ○ステップ2・・・課題の選択

個人として課題 a～課題 d の中から自分の習熟の程度に応じた課題を選ぶ。

#### ○ステップ3・・・グループの編成、学習場所(座席)の調整

同じ課題を選んだ者で4人前後のグループを編成する。(人間関係に配慮する)

#### ○ステップ4・・・課題の解決

最初の課題を個々に与え、取り組ませる。必要に応じて教え合う場を持たせる。  
グループ内の全員がわからない場合は教師による指導・助言を行う。原則として  
グループ内全員が終わって答えを確認できたら、次の課題に取り組む。

#### ○ステップ5・・・学習内容の確認

全グループが課題 d に取り組めたところで、課題 d に対する一斉指導を行い、文章問題の解き方の手順を確認する。その後各自続きを行わせる。課題 d' 以降については全体の取組状況を見ながら随時確認していく。最終的には教科書の指導内容(速さ・時間・道のり)である発展課題までは全体で確認する。

それ以降の課題については個別に確認する。

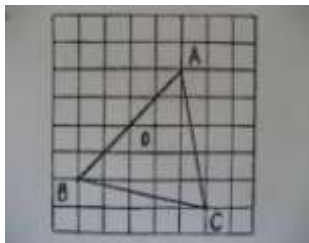
基礎基本の定着という視点では、自分の習熟の程度に応じた課題を選んで取り組めたことで、意欲も高まり、グループ内での教え合いも功を奏して、かなり効果があった。またTTによる指導も加えて行えたときは、進度の遅いグループも指導・助言により確実に理解し、自信を持って積極的に課題に取り組むことができた。そして課題 d 以降については随時全体で確認することで、学習内容をそろえることができた。個に応じた指導という視点では、数学を苦手としている生徒に対してはもちろんのこと、得意としている生徒に対しても時間を持て余すこともなく、課題解決意欲を常に持たせて、積極的に課題に取り組ませることができた。その結果、用意した課題がすべて終わってしまう生徒が多数出て、慌てて発展問題(課題 S 1～S 5)をさらに用意することになった。

このように利用に入る場合は、既習事項への習熟を個々に図らせた上での学習が効果的であると考えられるので、1学年においては「1次方程式の利用」、2学年においては「連立方程式の利用」、3学年においては「2次方程式の利用」で課題選択学習を取り入れることを計画的に行っていくべきであろうと考える。

## (2) 第1学年 内容「座標の学習」

埼玉県「教育に関する3つの達成目標」との関連における語彙力や表現力の向上を図っていく課題の工夫として、座標の学習への意欲を持たせるための導入課題としてペアで行う学習活動である。

課題A. 下の三角形をとなりの人に言葉で伝えて、同じものをかいてもらおう。絶対に見せてはいけません



課題B. 下のマス目の中に、となりの人と同じ三角形をかこう。ただしとなりの人には言葉で伝えてももらうだけで、絶対に見せてもらってはいけません。



隣同士の2人組を作り、伝える人になるか、伝えてもらう人になるかを生徒に決めさせ、課題A,Bを配り、取り組ませた。この課題によって、生徒は相手に伝えることの難しさや楽しさを学び、また相手から伝えてもらうことのおもしろさを感じることができた。また座標の必要性や有効性を強く感じることができ、その後の学習への意欲的な取組が見られた。